

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572609188		
法人名	有限会社 峰の山		
事業所名	グループホーム みずこしの里		
所在地	秋田県大仙市土川字上雨堤135-1		
自己評価作成日	平成29年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成29年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームみずこしの里は、福祉・介護を通じ地域の皆様の健康と豊かな生活づくりに貢献し、愛情あふれる会社を目指します。継続した介護サービスを提供するとともに、介護職員の技術の向上と知識の習得に努めます。利用者が豊かな自然のもと、畑作り・花作りや手芸・家事の分担に取り組み、一人ひとりが穏やかに自分らしく生き、介護職員がそれを支えています。太陽光発電を設置し、環境にやさしい施設作りにも努めており、NPO法人環境あきた県民フォーラムによるあきた環境優良認定事業所でもあります。又、全国健康保険協会秋田支部による受動喫煙防止宣言施設への登録、健康経営宣言の認定も受けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町内会長が音頭を取り、ホーム前の道路端に地域住民の協力で花の苗を植えており、秋田環境優良事業所に認定されている。また、地域の民謡や芸能ボランティアの訪問も頻繁で、一緒に踊ったり唄ったりする入居者の表情が確認できた。毎朝の申し送り時も気づきや要望を互いに出し合える環境にある。1号棟と2号棟に分かれてはいるものの、気さくに話し合い、互いの情報や経験を共有し垣根のない関係を構築している。「後で」は言わないよう受け答えに気を付けているとのこと。言葉掛けも一つ間違えと虐待にあたることを念頭に置いている。「ギクシャクしないよう、その人に合った堅苦しくない方言でコミュニケーションを図ることが大切」と職員は語る。「入居者の立場で傾聴することを今後も大切にしたい。他者の目はいつもあることを念頭に取り組みたい。」との管理者の言葉が印象的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	専門技術や知識を高める為に常に職員の質の向上に努め、全員が理念を共有できるように話し合いをしている。	パンフレットに別紙でホームの基本理念と7項目に亘る経営理念が挟み込まれており、ホームの目立つ位置にも掲げられている。両理念とも、設立当初からのもので、毎月全職員参加の全体会議で折に触れ浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りや各種イベントには入居者・職員共々参加させて頂き、地域の方々との交流をさせて頂いている。	8月のホームの納涼祭ではカラオケ・流しそうめん・枝豆・綿あめ等出店を企画し、参加した地域住民から好評である。地域の交流祭りへも入居者とともに参加している。町内会長が音頭を取り、ホーム前の道路端は地域住民の協力により、花の苗を植えており、秋田環境優良事業所に認定されている。また、地域の民謡や芸能ボランティアの訪問も頻繁で、一緒に踊ったり唄ったりする入居者の表情が確認できた。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	花壇の花植えやボランティア受け入れ、納涼祭等、行事の実施の際には声掛けし、お手伝いして頂いたり見学して頂けるよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様及び家族様・介護保険事務所・自治会長・民生委員等の方々からご参加頂き、地域との交流を図る等、サービスの質の向上につなげるよう取り組んでいる。出席者からの意見を真摯に受け止め、サービスの向上に向け取り組み、会議記録を職員全員に回覧して内容を把握して頂いている。	隔月最終水曜日15:00~と定め、次回の開催日を毎回案内することで、より参加しやすいよう配慮している。実施報告書より、市介護保険担当者の他、地域包括支援センターの参加も確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に電話連絡したり出向いたりして協力関係作りに取り組んでいる。	生活保護を受給している入居者について、市保護担当者との連携は欠かせないとのこと。市の協力のもと、仙台市からの中学生農業体験約20名の内、6名をホームで受け入れ、ホームの畑で代表取締役や管理者と農作業をする姿が廊下の写真で確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議等で勉強会を実施、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	行動規範や身体拘束防止マニュアルにて身体拘束をしないケアの実践に向けた内容が詳細に設定され、必要な様式の設定も確認できた。入居時に関係する内容を説明し同意を得ている。8月の内部研修で身体拘束防止に向けた研修を実施しており、参加者及び関係する全職員に回覧されていることが、捺印で確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルをいつでも見られるようにしている。全体会議でも話し合いの場を持ち、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	各利用者様の状況を把握し、必要な場合は活用出来るように支援している。開設者については研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の来訪時や郵送にて利用者ご家族への説明同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時やケアプラン作成時にご意見ご要望をお伺いしている。	各棟入口付近には、職員の職種と顔写真、その月の勤務表が掲示され、誰からも分かり易いよう配慮していることが確認できた。最低でも3か月に一度は管理者が家族へ電話連絡しており、家族の面会時には、意見や要望を聞き取るよう努めている。	入居者本人の思いを汲み取り、日常の支援に反映させるよう、今後とも、その思いを家族と共有するための更なる工夫に取り組むよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体会議で職員の発言や提案をする時間を設け意見交換している。	カンファレンスや日常の業務の中ではもちろんのこと、毎朝の申し送り時も気づきや要望を互いに出し合える環境にある。1号棟と2号棟に分かれてはいるものの、気さくに話し合い、互いの情報や経験を共有し垣根のない関係を構築している。年に1度、2回に分け研修旅行と銘打って、観光地に出かけ職員と親交を深めている。明日は職員の忘年会とのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月～金曜日まで午前8時～午後5時までほぼ勤務し、管理者や職員個々に対し資格取得及び研修受講において給料水準の引き上げを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保し、研修報告を行いケアの向上・共有が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を行い、相互のホーム内の活動を検討する機会を持ち、向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接をし、本人の不安や要望を聞き、安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様の要望等を聞いて、良い関係づくりができるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の会話に耳を傾け、共に暮らす者同士の関係づくりに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回、その月にあった行事などをお便りで報告している。利用者様の近況報告として各担当者が行事の際の様子なども記入している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の昔話や仕事の話などに耳を傾け、馴染みの人などとの関係づくりを支援するように努めている。	地元の民謡や芸能のボランティアの訪問が多く、互いに顔見知りであることも手伝い、懐かしい話の出来る関係維持に貢献している。入居前に利用していた近隣の床屋や美容院を利用していた入居者も、次第に心身の低下により、今は訪問してもらい利用するよう変化しているとのこと。墓参りへ家族が同伴している事例も確認できた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないように、職員が間を取り持ち、一緒に過ごせるように配慮している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援・要望に対し、常に相談対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個人のペースに合わせ、食事や入浴・体操・散歩など意向に沿った支援を行い、本人のストレスにならないような援助に心掛けている。	衣類へのボタン付けやゴム入れ、春の花の苗植え、おしぼりたたみ、茶碗拭き等、入居者個々の出来る事を把握し、毎日の生活の中で自然に役割をつとめるよう配慮している。山菜の下ごしらえや干し柿作りは、入居者の得意とするところ。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報をご家族様より収集し、今後のサービスの向上及び、一人ひとりが穏やかな生活を送れるよう把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活記録に一日の行動パターンを記録し現状を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングを実施、またご家族様の面会時にはご意向を伺い、それに基づいたケアプランの作成に努めている。	最低でも3か月に一度は管理者が家族へ電話連絡しており、家族の面会時には、意見や要望を聞き取るよう努めている。ケースカンファレンスや日常の業務の中ではもちろんのこと、毎朝の申し送り時も気づきやアイデアを互いに出し合っており、現状に即した詳細な介護計画を確認した。介護計画は全職員で共有し、日々の支援に反映させている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りにて職員間の情報を共有し、モニタリングに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花壇の花植えの際には、利用者様にもご協力頂き、また、ボランティアの受け入れ時や納涼祭等、楽しんで頂けるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診、かかりつけ歯科医受診を定期的・本人の希望時・体調不良時に援助している。	市街地に遠いという地域性を考慮し、職員が通院に付き添うことを基本としており、入居前のかかりつけ医からの紹介状で、ホームのかかりつけ医に切り替える例が多い。病状によっては、入居前のかかりつけ医やホームのかかりつけ医以外を利用すること。訪問看護を利用しており、利用する側にとって心強い存在である。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの協力を得て、週1回看護師によるバイタルチェック、利用者様の体調の変化などに対する相談等、適切な支援をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、早期に退院できるよう、医療連携室との情報交換を行い、面会により様子の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向・かかりつけ医からの意見を確認しつつ、ホーム側の対応について職員も意見交換し職員全員が同一方針の共有に努めている。	「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、入居時に説明し同意を得ている。看取りに向けた職員の研修に積極的に取り組もうとする姿勢が感じられる。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防分署の協力を得て実施訓練を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の際には、職員一人ひとりの実践力を身につけ、また地域住民の方にも避難の手助けの訓練、消火器を用いた消火訓練に参加頂いている。	避難訓練を年2回実施しており、うち1回は夜間想定。町内会長の協力により、毎回3～4名の近隣住民が参加し、避難誘導に協力している。いざという時に近隣者の存在は貴重とのこと。消防署から、ドアについて、火事は閉鎖、地震は開放、訓練時の発声、消火器の操作方法等についてアドバイスを受けたとのこと。災害用として3日分の食料を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保ができるよう徹底している。利用者様の尊厳を重視し、丁寧な言葉遣いと、プライバシーに配慮した声掛けをしている。個人記録ファイルは事務所保管し他の利用者様の目に触れないよう配慮している。	ホームの都合に合わせた対応でなく、「後で」は言わないよう受け答えに気を付けているとのこと。言葉掛けも一つ間違えると虐待にあたることを念頭に置いている。「ギクシャクしないよう、その人に合った堅苦しくない方言でコミュニケーションを図ることが大切」と語る職員の言葉が印象的であった。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き、対応できるよう努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ時間を制限せず、本人のペースで過ごしてもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容を支援し、出来るだけの要望を聞き外出時はご本人と外出着を選び外出できるよう支援している。 化粧品等の購入の要望はご家族と相談しながら対応している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食後の後片付けなど、職員と共にご本人の出来る範囲内で行って頂けるよう依頼している。	外食は入居者に好評で、ラーメン・かつ丼・親子丼は人気とのこと。旅行では管理者の知り合いのレストランに協力いただき、味噌タンポ・イワナの塩焼き・いものこ汁が提供されると、普段食の細かい方も完食すること。各々の小遣いで好きなメニューを注文する機会も提供している。誕生会には、3時のおやつにケーキを外注し、各棟で味わっている。おしぼりたたみ、茶碗拭き等、入居者個々の手伝える事でその過程に参加できるよう配慮している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を毎日記録し、状況を把握している。食事は個々に合わせ、必要な場合は粗刻みするなど、状態に合った支援をしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声掛けや見守りにて行い、就寝時には義歯洗浄剤を使い清潔を保てるよう支援している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、誘導・声掛けいて排泄を促し、自立に向けた支援を行っている。失禁時には他利用者様に気付かれないよう配慮して援助している。	チェック表を用いて詳細に個々の排泄のパターンを把握しており、他者に気づかれないよう声掛けし、交換は居室で行うよう、トイレはカーテンでも仕切れるよう配慮している。とにかく声掛けが基本とのこと、現在ポータブル使用者はいない。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は牛乳、昼はヨーグルト、毎食野菜を取り入れるよう努めている。また、ほぼ毎日のラジオ体操(1日2回)にて便秘予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、午前・午後、入浴・シャワー浴等、本人の希望に沿えるような体制をとっている。	月曜日と木曜日の10:00～16:00に実施しており、最低でも一人当たり週2回は入浴できるよう配慮している。声掛けをしては、例えばかゆいところはないか、洗髪はどのようにするかといった希望に添えるようにしている。湯温の確認は必ず職員が自らの手で確認している他、寒くないよう追い炊きのタイミングに気を使っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意見を尊重し、日中は居室・リビング・和室等本人の望む場所で、夜間は居室にて気持ちよく休息できるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・目薬は職員が管理し、副作用や用法・用量を確認、医療関係者と相談しながら支援・確認に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の支度・後片付け、掃除等、それぞれの出来る範囲で行って頂けるよう支援している。嗜好品については、個々に買って頂いたり、職員が代行したりして支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バスハイキング・ドライブ等を定期的に行う他、天候の良い日は日光浴など本人の希望により行っている。可能な方は近隣の行事に参加するなど地域の方との交流も図っている。	自動車の行き来の少ない道がいつもの散歩コース、稲刈りや桜の開花で季節感を味わうことも大切な散歩の目的。日光浴を楽しんだり、ケヤキの木の下にベンチを置くことで、腰を下ろしくつろげるよう配慮している。家族との外出や墓参り、買い物、外食を楽しんでいる。春には角館方面、秋には田沢湖方面へドライブに出かけることがホームの恒例となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外泊時、希望される方については多少のお金を所持して使っている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には電話や手紙のやりとりをしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や掘りごたつのある和室、多目的ホール等、広い共有空間となっております。また、畑や花壇にて季節を味わって頂けるよう工夫している。	縫製工場をリフォームしたホームの廊下はとにかく広く、民謡や芸能を披露するのに充分過ぎる程である。手作りのペットボトルを工夫して作成したポウリングを廊下で楽しんでいる。12月には電気屋さんに依頼し、室内にクリスマスの素敵なイルミネーションが点灯する。テーブルに飾られた季節の花々が入居者や来訪者を和ませている。当日はシクラメンの花が1号館に咲いていた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室であり、和室やリビングのソファー、廊下のテーブル席等、色々な場所で過ごせるよう工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室へは馴染みのものを自由にお持込み頂き、本人が居心地良く落ち着いて過ごせるようにしている。	ギャッジベットとタンスは備え付け。仏壇の水を毎朝換える方、ぬいぐるみが好きで持ち込んでいる方、テレビを居室に持ち込んでいる方は1人とのこと。毎朝職員が全居室を掃除し、チェック表を記入している。感染症対策の消毒にも配慮している。縫製工場をリフォームしたホームの居室はとて広く感じる。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー、廊下・トイレには手すりを設置し、安全に行き来できるよう工夫している。		